

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3104515号
(U3104515)

(45) 発行日 平成16年9月30日(2004.9.30)

(24) 登録日 平成16年7月21日(2004.7.21)

(51) Int.Cl.⁷

A 4 1 B 1/18

A 4 1 B 1/08

A 4 1 B 3/02

F I

A 4 1 B 1/18

Z

A 4 1 B 1/08

Z

A 4 1 B 3/02

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 実願2004-1922 (U2004-1922)

(22) 出願日 平成16年4月8日(2004.4.8)

(73) 実用新案権者 597008533

フレックスジャパン株式会社

長野県更埴市大字屋代2451

(74) 代理人 100062236

弁理士 山田 恒光

(74) 代理人 100083057

弁理士 大塚 誠一

(72) 考案者 矢島 隆生

長野県千曲市大字屋代2451番地 フレ
ックスジャパン株式会社内

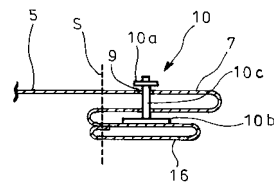
(54) 【考案の名称】 シャツ

(57) 【要約】

【課題】着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に直接触れないようにした着心地の良いシャツを提供する。

【解決手段】鼓ボタン10を採用したシャツに関し、下前身頃5の前身端7で裏側に折り重ねられてステッチSで縫い付けられた部分に、このステッチSの縫い付けにより袋綴じにされて前記鼓ボタン10の座金部分10bを被覆し得るように折り返された比翼部16を形成する。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上前身頃及び下前身頃の両方の前身端にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより上前身頃及び下前身頃の前身端同士を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、下前身頃の前身端の裏側に、該前身端における各鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように比翼部を形成したことを特徴とするシャツ。

【請求項 2】

衿台の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより衿元を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、衿台の下前身頃側のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするシャツ。 10

【請求項 3】

カフス部の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより袖口を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、カフス部の下側に重なる端部のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするシャツ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、鼓ボタンを採用したシャツに関するものである。 20

【背景技術】

【0002】

日本国内におけるシャツで一般的に用いられているボタン留め形式は、一方の衣料生地に縫着したボタンを、他方の衣料生地に形成したボタン孔に掛け留めして両衣料生地を閉じ合わせるといったものが主流であるが、インド等の海外で生産されているシャツには、鼓ボタンと呼称される金属製の特殊ボタンを用いたボタン留め形式が採用されている例も多い。

【0003】

図 5 及び図 6 は鼓ボタンを採用したシャツの一例を示すもので、図 5 はシャツの前を閉じ合わせた時の状態を示し、図 6 はシャツの前を閉じ合わせる前の状態を示しており、図 30
中 1 はシャツ、2 は衿、3 は衿台、4 は上前身頃（シャツ 1 の前を閉じ合わせた時に上側になる前面部分）、5 は下前身頃（シャツ 1 の前を閉じ合わせた時に下側になる前面部分）を示しており、上前身頃 4 と下前身頃 5 の両方の前身端 6, 7 に複数のボタン孔 8, 9 が形成され、両ボタン孔 8, 9 に通した鼓ボタン 10 により上前身頃 4 及び下前身頃 5 の前身端 6, 7 同士が閉じ合わされるようになっている。

【0004】

即ち、鼓ボタン 10 は、図 7 に概略的に示す如きボタン本体 10 a と座金部分 10 b とを連結部 10 c で連結して構成されており、下前身頃 5 のボタン孔 9 の裏側に座金部分 10 b を掛止させた状態で上前身頃 4 のボタン孔 8 の表側にボタン本体 10 a を掛止させることでボタン留めが成されるようにしてある。 40

【0005】

また、衿台 3 の両方の端部にもボタン孔 11, 12 が形成されていて、両ボタン孔 11, 12 に通した鼓ボタン 10 により衿元が閉じ合わされるようにしてあり、更には、カフス部 13 の両方の端部にもボタン孔 14, 15 が形成されていて、両ボタン孔 14, 15 に通した鼓ボタン 10 により袖口が閉じ合わされるようにしてある（図 5 参照）。

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0006】

しかしながら、鼓ボタン 10 を採用した従来のシャツ 1 では、シャツ 1 の前を閉じ合わせる前の状態において、鼓ボタン 10 が下前身頃 5 側の前身端 7 のボタン孔 9 や、衿台 3 50

の下前身頃 5 側の端部のボタン孔 1 2 に鼓ボタン 1 0 が保持されるようになっており、また、袖口を閉じ合わせる前の状態においては、カフス部 1 3 の下側に重なる端部のボタン孔 1 5 に鼓ボタン 1 0 が保持されるようになっているが、これらボタン孔 9, 1 2, 1 5 の何れに保持されている鼓ボタン 1 0 も、その座金部分 1 0 b が衣料生地 of 裏側に露出してしまうので、着用時に鼓ボタン 1 0 の座金部分 1 0 b が肌に直接触れて不快な冷感を感じてしまうという不具合があった。

【0007】

尚、下前身頃 5 側の前身端 7 のボタン孔 9 に保持されている鼓ボタン 1 0 の詳細は図 8 に示す通りであり、下前身頃 5 の前身端 7 で裏側に折り重ねられてステッチ S で縫い付けられた二重の部分にボタン孔 9 が形成されていて、このボタン孔 9 に鼓ボタン 1 0 の連結部 1 0 c が通され、表側にボタン本体 1 0 a が、裏側に座金部分 1 0 b が夫々露出するようになっている。

【0008】

他方、衿台 3 やカフス部 1 3 のボタン孔 1 2, 1 5 に保持されている鼓ボタン 1 0 の詳細は図 9 に示す通りであり、これら衿台 3 やカフス部 1 3 の何れも保形性を高めるために二重になっており、ここに形成されたボタン孔 1 2 やボタン孔 1 5 に鼓ボタン 1 0 の連結部 1 0 c が通され、表側にボタン本体 1 0 a が、裏側に座金部分 1 0 b が夫々露出するようになっている。

【0009】

本考案は、上述の実情に鑑みてなしたもので、着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に直接触れないようにした着心地の良いシャツを提供することを目的としている。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本考案の請求項 1 に記載の考案は、上前身頃及び下前身頃の両方の前身端にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより上前身頃及び下前身頃の前身端同士を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、下前身頃の前身端の裏側に、該前身端における各鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように比翼部を形成したことを特徴とするものである。

【0011】

而して、このようにすれば、上前身頃及び下前身頃の前身端同士を閉じ合わせるにあたり、下前身頃の前身端の裏側に掛止される鼓ボタンの座金部分が比翼部により被覆されて肌に直接触れなくなるので、シャツの着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合が未然に回避される。

【0012】

また、本考案の請求項 2 に記載の考案は、衿台の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより衿元を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、衿台の下前身頃側のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするものである。

【0013】

而して、このようにすれば、衿元を閉じ合わせるにあたり、衿台の下前身頃側端部の裏側に掛止される鼓ボタンの座金部分が別の生地により被覆されて肌に直接触れなくなるので、シャツの着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合が未然に回避される。

【0014】

更に、本考案の請求項 3 に記載の考案は、カフス部の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより袖口を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、カフス部の下側に重なる端部のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするものである。

【0015】

而して、このようにすれば、袖口を閉じ合わせるにあたり、カフス部の下側に重なる端部の裏側に掛止される鼓ボタンの座金部分が別の生地により被覆されて肌に直接触れなく

なるので、シャツの着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合が未然に回避される。

【考案の効果】

【0016】

上記した本考案のシャツによれば、下記の如き種々の優れた効果を奏し得る。

【0017】

(I) シャツの着用時に鼓ボタンの座金部分が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合を未然に回避することができるので、鼓ボタンを採用したシャツの着心地を著しく改善することができる。

【0018】

(II) 外気温度が高い時にシャツの胸元を開けたり、汚れ仕事や水仕事のために袖口を折り返したりしても、裏地側に鼓ボタンの座金部分が露出しないので、シャツの美観を良好に保つことができる。

【考案を実施するための最良の形態】

【0019】

以下本考案の実施の形態を図示例と共に説明する。

【0020】

図1～図4は本考案の実施の形態の一例を示すもので、図中図5～図9と同一の符号を付した部分は同一物を表わしている。

【0021】

前述した図5～図9と同様に鼓ボタン10を採用したシャツ1に関し、本形態例においては、先に説明した従来例の図8と同じ破断位置で見た図1の断面図に示す如く、下前身頃5の前身端7で裏側に折り重ねられてステッチSで縫い付けられた部分に、このステッチSの縫い付けにより袋綴じにされて前記鼓ボタン10の座金部分10bを被覆し得るように折り返された比翼部16が形成されている。

【0022】

即ち、この比翼部16は、下前身頃5の前身端7で裏側に折り込まれる部分を従来より長めに確保しておき、これを左右交互に計三回折り返して葛折りにしたものをステッチSで縫い付けることにより形成されており、アイロンプレス等により鼓ボタン10の座金部分10bを被覆した状態で形付けられている。

【0023】

また、図2に下前身頃5を裏側から見た状態を示しているように、衿台3の下前身頃5側のボタン孔12の裏側には、鼓ボタン10の座金部分10bを被覆し得るように別の生地17が宛がわれて袋状に縫い付けられている。

【0024】

更に、図3にカフス部13を展開して裏側から見た状態を示しているように、カフス部13の下側に重なる端部のボタン孔15の裏側には、鼓ボタン10の座金部分10bを被覆し得るように別の生地18が宛がわれて袋状に縫い付けられている。

【0025】

尚、これら図2及び図3の要部に関する断面図は図4に示す通りであるが、この図4は、先の図1の断面図に倣い、表側から見た衿台3やカフス部13の要部を水平に破断して見上げた方向の断面で示してある。

【0026】

而して、このようにシャツ1を構成すれば、上前身頃4及び下前身頃5の前身端6, 7同士を閉じ合わせるにあたり、下前身頃5の前身端7の裏側に掛止される鼓ボタン10の座金部分10bが比翼部16により被覆されて肌に直接触れなくなり、しかも、衿元を閉じ合わせるにあたって、衿台3の下前身頃5側端部の裏側に掛止される鼓ボタン10の座金部分10bが別の生地17により被覆されて肌に直接触れなくなり、更には、袖口を閉じ合わせるにあたって、カフス部13の下側に重なる端部の裏側に掛止される鼓ボタン10の座金部分10bが別の生地18により被覆されて肌に直接触れなくなるので、シ

10

20

30

40

50

シャツ 1 の着用時に鼓ボタン 10 の座金部分 10 b が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合が未然に回避されることになる。

【0027】

従って、上記形態例によれば、シャツ 1 の着用時に鼓ボタン 10 の座金部分 10 b が肌に触れることで不快な冷感を感じてしまう不具合を未然に回避することができるので、鼓ボタン 10 を採用したシャツ 1 の着心地を著しく改善することができる。

【0028】

また、外気温度が高い時にシャツ 1 の胸元を開けたり、汚れ仕事や水仕事のために袖口を折り返したりしても、裏地側に鼓ボタン 10 の座金部分 10 b が露出しないので、シャツ 1 の美観を良好に保つことができるという利点もある。

10

【0029】

尚、本考案のシャツは、上述の形態例にのみ限定されるものではなく、本考案の要旨を逸脱しない範囲内において種々変更を加え得ることは勿論である。

【図面の簡単な説明】

【0030】

【図 1】本考案の実施の形態の一例を示す断面図である。

【図 2】図 1 の下前身頃を裏側から見た状態を示す背面図である。

【図 3】カフス部を展開して裏側から見た状態を示す平面図である。

【図 4】図 2 及び図 3 の要部に関する断面図である。

【図 5】鼓ボタンでシャツの前を閉じ合わせた状態を示す正面図である。

20

【図 6】図 5 のシャツの前を閉じ合わせる前の状態を示す正面図である。

【図 7】鼓ボタンの概略を示す斜視図である。

【図 8】従来の鼓ボタンの保持状態の一例を示す断面図である。

【図 9】従来の鼓ボタンの保持状態の別の例を示す断面図である。

【符号の説明】

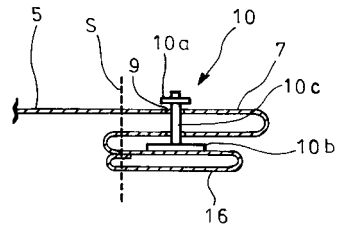
【0031】

- 1 シャツ
- 2 衿
- 3 衿台
- 4 上前身頃
- 5 下前身頃
- 6 前身端
- 7 前身端
- 8 ボタン孔
- 9 ボタン孔
- 10 鼓ボタン
- 10 a ボタン本体
- 10 b 座金部分
- 10 c 連結部
- 11 ボタン孔
- 12 ボタン孔
- 13 カフス部
- 14 ボタン孔
- 15 ボタン孔
- 16 比翼部
- 17 別の生地
- 18 別の生地
- S ステッチ

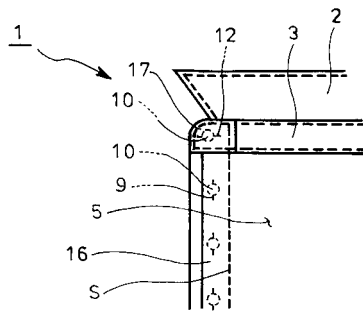
30

40

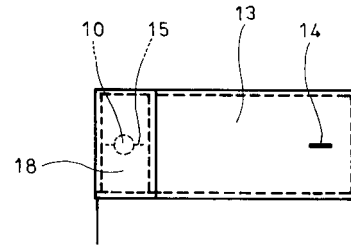
【図 1】



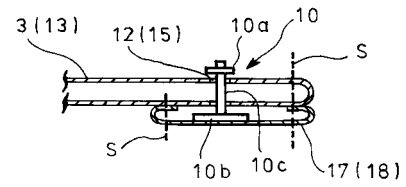
【図 2】



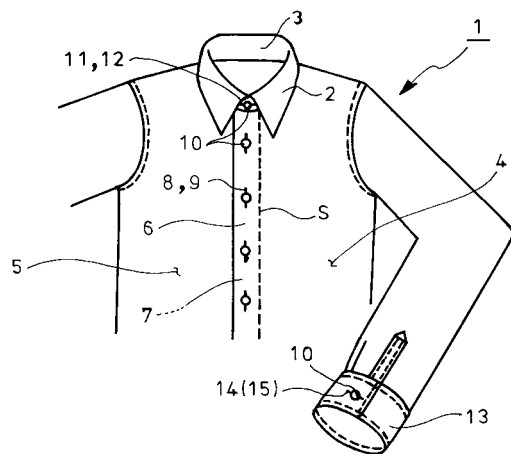
【図 3】



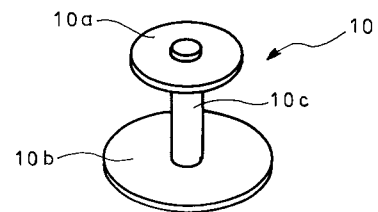
【図 4】



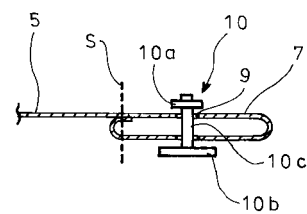
【図 5】



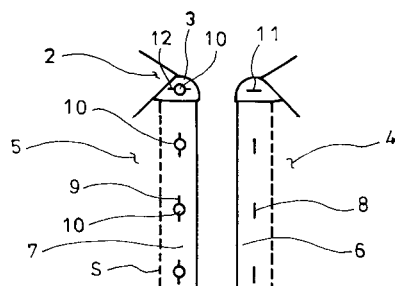
【図 7】



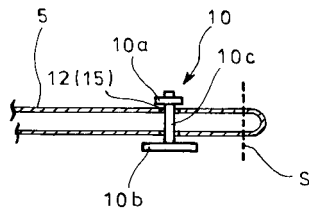
【図 8】



【図 6】



【図 9】



【手続補正書】

【提出日】平成16年5月11日(2004.5.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

上前身頃及び下前身頃の両方の前身端にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより上前身頃及び下前身頃の前身端同士を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、下前身頃の前身端で裏側に折り込まれる部分を左右交互に折り返してステッチで縫い付け且つアイロンプレスにより鼓ボタンの座金部分を被覆した状態に形付けて比翼部を形成したことを特徴とするシャツ。

【請求項 2】

衿台の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより衿元を閉じ合わせるように構成すると共に、衿台の下前身頃側のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とする請求項 1 に記載のシャツ。

【請求項 3】

カフス部の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより袖口を閉じ合わせるように構成すると共に、カフス部の下側に重なる端部のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のシャツ。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0010
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0010】

本考案の請求項1に記載の考案は、上前身頃及び下前身頃の両方の前身端にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより上前身頃及び下前身頃の前身端同士を閉じ合わせるようにしたシャツにおいて、下前身頃の前身端で裏側に折り込まれる部分を左右交互に折り返してステッチで縫い付け且つアイロンプレスにより鼓ボタンの座金部分を被覆した状態に形付けて比翼部を形成したことを特徴とするものである。

【手続補正3】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0012
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0012】

また、本考案の請求項2に記載の考案は、本考案の請求項1に記載のシャツに関し、衿台の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより衿元を閉じ合わせるように構成すると共に、衿台の下前身頃側のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするものである。

【手続補正4】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0014
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0014】

更に、本考案の請求項3に記載の考案は、本考案の請求項1に記載のシャツに関し、カフス部の両方の端部にボタン孔を形成し、両ボタン孔に通した鼓ボタンにより袖口を閉じ合わせるように構成すると共に、カフス部の下側に重なる端部のボタン孔の裏側に、鼓ボタンの座金部分を被覆し得るように別の生地を宛がって袋状に縫い付けたことを特徴とするものである。

【手続補正5】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】0022
【補正方法】変更
【補正の内容】
【0022】

即ち、この比翼部16は、下前身頃5の前身端7で裏側に折り込まれる部分を従来より長めに確保しておき、これを左右交互に計三回折り返して葛折りにしたものをステッチSで縫い付けることにより形成されており、アイロンプレスにより鼓ボタン10の座金部分10bを被覆した状態で形付けられている。